

図書館だより

枚方市立図書館通信第 98 号 <http://www.city.hirakata.osaka.jp/site/sub-news/tayori.html>

発行：平成 27 年 2 月 枚方市立中央図書館 〒573-1159 枚方市車塚 2-1-1 TEL 050-7105-8141(代) FAX 072-851-0962

(休館日：毎週金曜日、図書整理のため臨時休館：2 月 9 日月曜日～15 日日曜日) 2 月 24 日火曜日は臨時開館します。



写真：津田図書館

「第 2 回ころをつたえよう！ ひらかた朗読大会」

レポート

1 月 25 日に中央図書館で開催、小中学生 29 人が出場、優秀賞は 5 人に授与

中央図書館で「第 2 回ころをつたえよう！ ひらかた朗読大会」を開催し、小学生 26 人、中学生 3 人がひとり 3 分程度で朗読しました。この催しは「暗唱大会」として過去 8 回開催してきましたが、より深く作品内容を理解するため、昨年「朗読大会」として開催しているものです。

出場者は国語の教科書から自由にテキストを選べるのですが、中川李枝子「くじらぐも」、アーノルド・ローベル「おてがみ」、ニコライ・ストラコフ「かげ」、新美南吉「ごんぎつね」、ウーリー・オルレブ「のどがかわいた」、椋鳩十「大造じいさんとガン」、重松清「カレーライス」、吉橋通夫「さんちき」については複数の出場者が選択しました。審査委員長には関西朗読家クラブ代表の端田宏三さんを迎え、教育委員、学校教育関係者など 7 人で審査を行いました。正確にテキストを朗読できているか、滑らかに発音できているか、聞き取りやすく、心地よい声か、内容に合わせて自然な緩急をつけているか、作品を深く理解して、その作品の素晴らしさを伝えようとしているかについて、厳正に審査を行った結果、僅差ではありましたが、5 人が優秀賞に決まり、山下教育委員から賞状と副賞の図書カードを授与しました。枚方市立図書館ではさまざまな催しを通して子ども読書を推進していきます。(中央図書館児童サービスグループ・学校図書館支援グループ)

2 月の図書館イベント

子ども対象の行事

●村野分室

工作「おはなのおひなさまをつくろう」

2 月 20 日 (金曜日) 13 : 00 ~ 16 : 30

●藤阪分室

おたのしみ工作「おひなさまをつくろう」

2 月 28 日 (土曜日) 13 : 00 ~ 16 : 00

●釈尊寺分室

工作「ふしぎなはこ」

2 月 18 日 (水曜日)、2 月 19 日 (木曜日)

13 : 00 ~ 16 : 30

●東香里分室

工作「おりびな」

2 月 21 日 (土曜日)

13 : 00 ~ 16 : 00

●茄子作分室

工作「おひなさまをつくろう」

2 月 18 日 (水曜日) 13 : 00 ~ 16 : 30

●宮之阪分室

工作「ゆらゆらおひなさま」

2 月 19 日 (木曜日) 13 : 00 ~ 16 : 30

●香里園分室

工作「かわいい おひなさま」

2 月 21 日 (土曜日) 13 : 00 ~ 16 : 00

●氷室分室

工作「おひなさま」をつくろう！

2 月 19 日 (木曜日) 13 : 00 ~ 16 : 30



図書整理期間のため臨時休館します。

●香里ヶ丘図書館・菅原図書館

2 月 2 日 (月) ~ 2 月 8 日 (日)

●中央図書館 2 月 9 日 (月) ~ 2 月 15 日 (日)

●さだ図書館・御殿山図書館・津田図書館

2 月 16 日 (月) ~ 2 月 22 日 (日)

牧野図書館は、改修工事のため、1 月 9 日金曜日
から 2 月 28 日土曜日まで閉館しています。予約
本の受け取りは行います。

ふれあいルーム (絵本で子育て)

■中央図書館 毎週月曜日

■香里ヶ丘図書館 第 1・3 (金) 第 2・4 (木)

■楠葉生涯学習市民センター 第 2・4 火曜日

■菅原図書館 毎週日曜日

■さだ図書館 毎週木曜日 (第 3 週は金曜日)

■津田図書館 毎週水曜日

■御殿山図書館 毎週金曜日

いずれも 10 時 ~ 12 時 30 分 (楠葉のみ 9 時 30 分 ~
12 時) 但し、図書館等の休館日には実施しません。

問合先 (子育て支援室) 072-841-1221 代

ちょっと【本の紹介】

『紙つなげ! 彼らが本の紙を造っ
ている—再生・日本製紙石巻工場』

佐々涼子 : 著 早川書房 : 2014 年 6 月発行



2011 年 3 月 11 日、宮城県石巻市の日本製紙石
巻工場は津波に呑み込まれてしまいました。

しかし、それがその後の日本出版界の存続を左
右する出来事だったと知る人はわずかです。

本書は、絶望的な状況から、地元のため、出版
社と本を待つ読者のために紙を供給しようと闘い
続けた従業員達の復興までの姿を描いたノンフィ
クション作品です。

日本の出版用紙の約 4 割を生産する同社の基幹
工場である石巻工場から一冊の本として自分の手
元に届くまでにどのような人々の愛情と熟練技術
を経たのか、図書館も大きく関わる出版文化につ
いてもう一度考えながら、石巻の想い、被災地の
想いにふれてみてください。

(津田図書館職員)